

③市道花作平山線交差点改良（ラウンドアバウト）事業

受賞機関 山形県 長井市

キーワード ラウンドアバウト、豪雪地帯、維持管理への配慮

全建賞審査委員会の評価ポイント

山形県長井市地内の市道交差点で、日本初となる豪雪地帯でのラウンドアバウトということから、望ましい形状や維持管理方法に配慮しながら実施した事業。

除雪作業を考慮したエプロンの段差部へのプレキャストブロックの採用や吹雪による視界の悪化等に配慮した中央島の視認性向上対策等、構造や施設に創意工夫を実施した点、警察等関係機関と連携して通行ルールの周知を図る等により、当該交差点の安全性向上効果を発現した点が評価された。

1. はじめに

本市は、例年1.0mを超える積雪があり特別豪雪地帯に指定されている。この地域でのラウンドアバウトの導入は国内初であり、平成28年度より社会実験を行い、平成29年度に本格運用を開始した。

2. 事業概要

本事業は、市街地と郊外を結ぶ主要な路線（市道花作平山線）と近隣の町を南北に結ぶ路線（平泉線）の交差点で、1,500台/日程度の交通量ではあるが、周辺に事業所が点在し、日常的に大型車の通行が多い。交差点形状は、相互の車道幅員が同程度であるため道路の優先関係が分かりにくく、一時停止見落としによる出会い頭の事故が発生していた。そのため社会実験を経て、特別豪雪地帯におけるラウンドアバウトへの交差点改良工事を行った。



全景写真

3. 事業の成果

社会実験の結果から安全性の向上など、一定の効果を得ることができたため、平成29年度本格整備を行い、運用を開始した。整備手法や運用後の管理について主に以下の3点において対策を行った。

1) 交差点内の除雪作業

段差の生じるエプロン部分については、除雪による破損が懸念されるため、エプロンの形状を工夫するなど、極力ダメージを受けない構造とした。機械除雪作業についてはドーザとロータリー除雪の組み合わせで行い、縁石への目印等により円滑な除雪を行うことができた。今後も管理方法を模索しながら運用していく。

2) 視認性の向上と安全施設の検討

中央島の段差が20cmの段差だけでは積雪時埋没してしまうため、冬期間は仮設防護柵を中央島に設置することで、悪天候時でも中央島の形状を把握でき、かつ、対向車の存在も確保できる状態とした。また、積雪時でも安全施設を認識し安全に走行できるように、中央島のデリネータをかさ上げし、自発光式の視線誘導標も多く採用した。さらに、ラウンドアバウト交差点を事前に認識させるため、高さ5mの案内標識を交差点手前100m付近に設置した。路面对策としては流入部にグルーピング工を設置し、注意喚起を行った。

3) 交通ルールの周知

平成28年度から市のホームページやパンフレット、ラジオ等を活用し交通ルールの周知に努めているが、今後も継続して実施していく。



積雪時の状況（平成30年2月撮影）

4. おわりに

本交差点は仮設も含め平成28年11月から運用を開始しており、関係者の皆様のご協力により事故なく運用を行っている。今後も関係機関と協力して周知活動を行うとともに、ラウンドアバウトの維持管理対策を講じていきたい。

賛助会員 那須建設(株)